

開講科目名	比較地域政治論特殊講義		
担当教員	安岡 正晴	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

本講義では、世界の政治経済に圧倒的な影響力をもつアメリカ合衆国が抱える様々な政治的・社会的問題とその背景、および合衆国と国際社会との関係をできるだけ体系的に概観したい。内外の圧倒的な期待を背負って登場したオバマ政権も早3年過ぎ、期待は失望へと変わり、支持率は低下し、今年11月6日の大統領選挙での再選も危ぶまれている。対する共和党も圧倒的な支持を得る候補を立てることができず、オバマ大統領との決戦も接戦が予想されている。オバマ政権は2011年にビン・ラディン殺害で10年に及ぶテロとの戦いに一応の決着をつけ、イラクからの米軍の完全撤退を果たし、2014年にはアフガニスタンからの完全撤退する方針を打ち出したが、両国での治安は依然回復していない。その一方でイランとの間で緊張が急速に高まっている。またリーマン・ショック後の金融危機を一応、脱したものの、失業率は高止まりし、さらにユーロ危機が続く中で本格的な経済回復への道は未だ遠い状況である。こうした逆風の中、オバマ政権は直面する課題にどのように取り組んでいくのか？巨大な移民国家であるアメリカは内部に多数の「異文化」を抱えており、世界戦略を構想することなくして、国内を統治することもできない状態にある。本講義ではそうしたアメリカ社会の今日の姿を、日本を初めとする他の先進デモクラシー社会と比較しながら、最新データと理論研究を通じて明らかにしてゆきたい。

授業の概要と計画

1. オバマ政権の3年8か月と2012年大統領選挙
2. アメリカの政党制と連邦議会
3. 連邦最高裁判所の政治的役割
4. グリーンニューディールと揺れる原発推進政策
5. 世界金融危機以後のアメリカ経済
6. 同時多発テロ10周年とアメリカの安全保障政策
7. 犯罪、銃、ドラッグ規制への取り組みと現状
8. オバマ政権と人種問題
9. ジェンダーをめぐるアメリカの政策と政治
10. ネット時代のアメリカのメディアとジャーナリズム
11. アメリカの中東外交とイラク・アフガン政策
12. G2時代の米中関係と東アジア国際秩序
13. プーチン再登板と米ロ外交の行方
14. オバマ政権下の日米関係とその課題

成績評価と基準

授業中の発言、コメントカード：期末レポート = 40%:60%の割合で総合して評価する。

履修上の注意（関連科目情報等を含む）

大学院の授業は出席重視です。3回以上、欠席した場合、単位は認定しません。

オフィスアワー・連絡先

月、水、金の昼休み
 (その他は要予約 yasuoka@kobe-u.ac.jp)
 研究室 E409

学生へのメッセージ

政治というナマモノを扱うので日ごろからニュースや新聞に関心をもって、授業で習ったことを自分でもフォローしてほしい。

今年度の工夫

今年は予習教材を毎週指定し、それを事前に読んできてもらい、内容についての質疑応答を行ってから講義を行います。

教科書

特に使用しない。

参考書・参考資料等

久保文明編『オバマ政治を採点する』日本評論社、2010
 吉野孝・前嶋和弘『オバマ政権はアメリカをどのように変えたか』東信堂、2010
 久保・松岡・砂田・森脇『アメリカ政治(新版)』有斐閣、2010
 久保文明編『アメリカの政治(増補版)』弘文堂、2011
 渡辺靖『現代アメリカ』有斐閣、2010
 安藤次男『現代アメリカ政治外交史』法律文化社、2011
 佐々木卓也編『戦後アメリカ外交史(新版)』有斐閣、2009
 石井修・滝田賢治編『現代アメリカ外交キーワード』有斐閣、2003

授業における使用言語

日本語

キーワード

アメリカ政治 / アメリカ外交 / 2012年大統領選挙 / グローバリゼーション / 連邦制 / マルチカルチュアリズム / 二大政党制 / リベラリズム / アメリカ例外主義 / 国際協調主義 / G 2